

児童発達支援 スローワーク 支援プログラム

令和6年11月6日作成

- 1 法人理念 モリ・プランズ(株)
事業を通じて全ての人が「夢」、「役割」を持ち続け、笑顔で暮らせる社会を創造します。
- 2 支援方針 「楽しいを自信に」
- 3 営業時間 平日 10:00－13:00
- 4 支援内容

健康・生活	
ねらい	○健康状態の維持・改善 ○生活習慣や生活リズムの形成 ○基本的生活スキルの獲得 ○生活におけるマネジメントスキルの育成
支援内容	○健康状態の維持・改善 ・定期的な健康状態の把握として毎回体温測定を行う。 ・子どもの特性や発達に配慮し、小さなサインから心身の状態に気づき、本人に対する観察や保護者への連絡を経て適切な支援へとつなぐ。 ○生活習慣や生活リズムの形成 ・歯磨き、食生活、就寝時刻や就寝時間等、生活の様子を聞き取りながらよりよい習慣が身につくように支援する。 ・運動習慣が少ない子どもに対して、通所中に一緒に運動する。また、家庭における定期的な運動の大切さについて助言する。 ○基本的生活スキルの獲得 ・靴を揃える、挨拶をする、お礼を言う等、生活に必要な基本的スキルを獲得出来るように子どもの特性や発達に応じて支援する。 ・指導員と一緒に準備や片付けをすることを支援においても重視する。 ○生活におけるマネジメントスキルの育成 ・支援内容の順番に沿って支援が受けられるようにする。

運動・感覚	
ねらい	○姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ○身体の移動能力の向上 ○保有する感覚の活用
支援内容	○姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ・適切な起立や座位の感覚を通して安定した姿勢保持について体感する。 ・楽しい運動で粗大運動や目と手の協応力の向上を促す。 ・のりやはさみを使い微細運動の向上を促す。 ・様々な運動遊びを通してボディイメージの形成を促す。 ○身体の移動能力の向上 ・歩いたり跳んだりする運動等で身体移動の基礎となる動きを身につける。 ・工作等で目と手の協応を促す運動に取り組む。 ○感覚の特性への対応 ・感覚過敏用のイヤーマフ着用など環境に馴染みやすくなる用具を使用する。 ・感覚や認知の特性を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。 ・弱視等の子どもにとっては、適切な眼鏡等を使用する。

認知・行動	
ねらい	○対象や外部環境への適切な認知と適切な行動の習得 ○認知の特性についての理解と対応

	○行動障害への予防及び対応等
支援内容	○対象や外部環境への適切な認知と適切な行動の習得 ・視覚、聴覚、触覚の感覚を十分に活用できる認知機能の発達を促す支援を行う。 ・物の機能や属性、形、色、音が変化する様子を知る。(粘土等による物質の変化と感覚の認知を形成等) ・空間、時間等の概念の形成を図り、それを認知や行動の手がかりとして活用出来るように支援する。 ・天気の把握と確認により傘や長靴の使用等の関連認知の形成を促す。 ・構造化を意識したレイアウト・掲示・支援(視覚的に「何がどこにあるか」「どこで何をするか」を絵などを使い具体的に表示)に留意する。 ・季節の変化への興味などの感性形成のため、季節行事や外出を行う。 ・作物の収穫を通して自然とふれあう。 ○認知の特性についての理解と対応 ・眼球運動を促すために目で物を追ったり、目と手を協応して使う機会を増やす。 ・よく動いたり姿勢保持が難しい子に対しては、自分の状態に気がつけるように支援を行い自分自身で調整できるように促していく。 ・感覚、認知の偏りに対するリフレーミングを行う。 ・認知の特性による言葉(読み書き)、数(三項関係、基数性、序数性)等の学習の困難さに応じた学習支援を行う。 ○行動障害への予防及び対応等 ・こだわりが軽減するように本人の気持ちを聞き取りながらそれぞれの困り感に寄り添う。 ・こだわりに対するよりよい支援を行う。

言語・コミュニケーション	
ねらい	○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○言語の受容と表出 ○コミュニケーション手段の選択と活用 ○状況に応じたコミュニケーション
支援内容	○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・事物や行動と言葉を結びつけながら言語の習得を促す支援を行う。 ・楽しいコミュニケーションに努め、自らコミュニケーションを取っていかうとする態度を培うために。 ○言語の受容と表出 ・相手の意図を受け取ったり、自分の考えを伝えたりするなど、言語の受容と表出の支援を行う。 ・会話を初めとした適切なコミュニケーション方法を使い、意思の伝達が円滑にできるように支援する。 ・聞くことが難しい場合は、落ち着いて聞けるトレーニング等を行う。 ・個別で障害の特性に応じた読み書き数の支援を行う。 ○コミュニケーション手段の選択と活用 ・コミュニケーションは言葉だけでなく、動作なども大切であることを伝える。 ・手話はコミュニケーションにとって重要であることを伝える。 ○状況に応じたコミュニケーション ・困った場合に、どのように伝えようか場面によって学ぶ機会をつくる。 ・困ったことがあると言葉だけでなく、カードで表現できるように支援する。 ・ルールなどを絵や絵カードを使って視覚化する。

人間関係・社会性	
ねらい	○情緒の安定 ○他者との関わり(人間関係)の形成 ○遊びを通じた社会性の発達 ○自己の理解と行動の調整 ○仲間づくりと集団への参加

支援内容	○情緒の安定 ・身近な人と信頼出来る関係を基盤として、安定した人間関係を形成するための支援を行う。 ・アタッチメント(愛着)が形成できるように本人の特性や思いに沿ってサポートする。 ・感情が高ぶったり落ち着かなかったりした場合、その場を離れたり深呼吸するなど、感情や気持ちが落ち着く方法を見つけていけるように支援する。 ○他者との関わり(人間関係)の形成 ・相手に対しての望ましい言動がどうあるべきかを伝えながら支援する。 ・適切なコミュニケーション手段を繰り返し学び、相互に関わり合える素地を作る。 ・生活の様々な場面で相手と関わる際の具体的で好ましい方法を身につける。 ○遊びを通じた社会性の発達 ・ルールの理解が必要な遊びや小集団活動を支援に取り入れる。 ・小集団でのゲームや工作活動等を通し適切な行動形成へと導いていく。 ○自己の理解と行動の調整 ・自分の行動の特徴を少しずつ理解し、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 ○仲間づくりと集団への参加 ・イベントなどを通して地域との交流を行う。
------	---

家族支援	・保護者の困りごとや悩み事が軽減できるような相談支援を行う。 ・子どもへの関わりを共に考える子育て支援を行う。 ・保護者自身がまず安心できる視点からの子育て支援を行う。 ・きょうだいの相談に対しても支援を行う。 ・障害の特性に配慮した家庭環境整備の支援を行う。
移行支援	・地域の療育センター等への移行支援について支援を行う。 ・必要に応じて保育所・放課後児童クラブ等への移行支援を行う。 ・ライフステージの切替えを見据えた将来的な移行に向けた準備を行う。 ・他機関の教育相談への案内を行う。 ・教育講演会への案内を行う。
地域支援・地域連携	・保育所、学校、医療機関、地域の療育センター、相談支援事業所等との情報連携や調整、支援方法や環境調整等に関する相談援助等の取組を積極的に行う。 ・地域(地域の保育所等、児童館、地域住民との交流・行事等)と連携を行う。
職員の質の向上	・虐待防止、身体拘束防止、感染症防止、防災研修、BCP研修等を実施する。 ・書籍や学びのシェアを行う。 ・教育講演会などへ参加する。 ・自立支援協議会開催の学習会や講演会へ参加する。 ・職員間の実践交流会を複数回持ち、お互いに切磋琢磨していく。 ・放デイや児発制度、5領域等にかかる療育等、基礎的な研修を行う。 ・外部からの講師を招聘して研修を行う。
主な行事等	・七夕、敬老の日、ハロウィーン、クリスマスなどに関する行事を支援内容の題材として生かしていく。 ・ハロウィーン等、保育園や地域との交流の機会とする。 ・作物の収穫を通して自然とふれあう。